

研修冊子

令和4年度

各務原市 PTA 連合会研究大会

日時・開催方法

- | | |
|-------------|---------------------------|
| ★実践発表録画配信 | 令和5年1月30日(月)～2月28日(火) |
| ★記念対談録画配信 | 令和5年1月30日(月)～2月28日(火) |
| ★研修冊子ダウンロード | 令和5年1月30日(月)～令和5年3月31日(金) |
| ★報告冊子ダウンロード | 令和5年2月27日(月)～令和5年3月31日(金) |

＜研修冊子の内容＞

1. 市P連会長あいさつ
2. 実践発表
 - ①各務小学校PTA
 - ②稲羽中学校PTA
3. 記念対談紹介



各務原市 PTA 連合会

ごあいさつ

日頃より、各務原市PTA連合会の活動にご理解とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

3年前より始まった新型コロナウイルスの感染拡大によって、PTAの活動も様々な制約を受け、活動そのものができなくなってしまう状況が続いてきました。そしてそれはPTAの活動にとどまらず、社会生活全般にわたり、いろいろな弊害が表れています。

そんな中で迎えた今年度。私たち市P連では、活動を全部中止するのではなく、何ができそうなのかを考え、少しでもよりよいものを目指す取り組みを始めました。今回、実践発表いただく各務小学校PTA、稲羽中学校PTAも、コロナ禍でありながらも知恵を出し合い協力し合って、見事成果をあげられました。ぜひ、参考にさせていただければと思います。

また、今回は記念対談を行いました。

「子どもがゲームばかりして困っている」「オンラインで知らない人とつながってゲームをしていて心配だ」等子どもたちのゲームについて悩みをもってみえる保護者の方が多く、実際「ゲーム依存」「ゲーム中毒」といった言葉が存在しているように、ゲーム自身が社会問題となっている事実もあります。市P連としてもこれまで「情報モラル」をテーマに講演会や勉強会を行ってまいりました。そうした昨今の情勢を踏まえたうえで、今回、敢えて皆さんに問いかけたいと思います。「ゲームは本当に悪なのか？良い面はないのだろうか？」と。その点について、県立岐阜商業高等学校eスポーツ部顧問の下平先生やeスポーツ部初代部長の守屋さんとの対談を通して学んでいきたいと思えます。

本大会を通して、かかみがはらのPTAが共につなぎ、情報を共有し、更なる学びを得て、新しい時代に合った活動を見つけていけることを願っています。

また、今後の研究大会をよりよいものとするため、アンケートにもぜひご協力ください。

最後に本大会に温かいご支援とご協力をいただいた皆様、そしてご参加いただいた会員の皆様に心から感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

各務原市PTA連合会 会長 阿部 雄介

令和4年度 各務原市PTA連合会 研究大会 実践発表

(1) 各務小学校PTA

発表テーマ「伝統行事の継承とコロナ禍の資源回収」

発表者等

足立 英基 (会長)

藤代 伊十志 (副会長)

宇野 千里 (副会長)

布俣 知恵 (書記)

(2) 稲羽中学校PTA

発表テーマ「子どもたちの心に寄り添うためのPTA活動」

発表者等

中野 香里 (会長)

柴田 ジョニー (副会長)

廣瀬 紀子 (副会長)

中村 美喜子 (副会長)

丹羽 雅志 (副会長)

上野山 朝子 (副会長)

浅尾 早也香 (校外生活長)

横山 祐子 (研修長)

田中 零愛 (子育て広場長)

永井 敬子 (広報委員長)



令和5年1月30日(月) 午後より動画配信

1, はじめに

各務小学校は来年創立 150 周年を迎える伝統ある学校です。

周囲は、豊かな自然にめぐまれ自然遺産の森、子供歌舞伎が行われる村国神社、岐阜県の新八景にも選ばれたおがせ池を校区に持つ全校児童 187 名の小学校です。

今年度は、ウクライナから親戚を頼って避難してきたお子さんの転入もありました。クラスメイトとなじんで元気に登校しています。

年間を通じて様々な活動がある中、新型コロナウイルスの感染問題から 3 年目となった今年度は昨年同様に運動会も体育参観として行われました。PTA 活動は制限のある中、どのように活動をしたらよいか大きな課題でした。その中でも今回は、2 つの事案を取り上げたいと思います。



2, 鯉みこし下地和紙貼り作業

毎年 7 月になると校区内行事としておがせ池祭りが開催されます。

各務小学校では、例年より池の鯉に因んだ鯉みこしを製作し、おがせ池までの道のりをみこしを担いで練り歩くという伝統行事があります。近年、驚異的な猛暑による熱中症対策の観点から、練り歩くことを中止し、製作、展示のみ行っていました。さらにここ数年は新型コロナウイルスの影響もあり、伝統行事の衰退に拍車がかかる状況となっています。

今年度は当初より鯉みこしの製作、展示のみを行う方針のもと、PTA、学級委員、指導部会と連携しながら、鯉みこしの下地和紙貼り作業を行いました。下地の良しあしにより鯉みこしの

出来栄が大いに変わってくる為、慎重に、丁寧に和紙貼り作業を行いました。

障子紙を張り付ける作業と違い、みこしの骨組みへの和紙貼りは曲線部が多い事もあり中々大変な作業でした。しかし、子供たちの嬉しそうな笑顔を思い浮かべながら作業する事が出来、子供たちの為の作業はいつしか自分たちの達成感へと変わっていきました。



(鯉みこし下地和紙貼りの様子)

下地が出来上がると、子供たちにより鯉みこしに命が吹き込まれます。色鮮やかな見た目と希望に満ちたメッセージ、目標などが鯉みこしに彩られます。

産業文化センターにて、鯉みこしの展示が行われ、多くの人々に見て頂けたことは子供たちにとっても喜ばしい事です。

時代の流れには中々逆らうことは出来ませんが、地域の伝統、文化や行事を持続可能な形で残していくことは、PTA の理念にも通ずることかと思えます。

またいつか、おがせ池までの道のりを子供たちの掛け声と地域の方々の声援が満たしてくれることを切に願う次第です。



3, コロナ禍の資源回収

コロナ前の 2019 年度は 2~4 つの地域ごとに 1 つのステーションを設けて、PTA 会員の親御さんが各地域のご家庭を巡回して資源物を回収していました。少子化に伴い、各地域で PTA 会員

の家庭が少なくなり 1 人の回収する量が増え何度もステーションを往復したり、ステーションに回収し終わった車が集まるため通行の妨げになり、ご近所から苦情もありました。そのため、ステーション回収方式にも限界があったのかと思います。

それからコロナ禍となり 2020 年度は 5 月、9 月、2 月に実施予定だった PTA 資源回収は中止となりました。

2021 年度は、5 月、9 月はコロナ感染者数の上昇傾向だったため中止となりましたが、その間に先生方・役員の方が何とか P T A 資源回収の実現をとアンケートを実施して意見を募ったり、コロナ禍でも極力感染しないよう検討に検討を重ねたりして、考えられたのが、「ドライブスルー方式」です。

「ドライブスルー方式」とは、各務小学校の東門から南門へ通過する道に駐車スペースがあり、そこに三角コーンに回収物名が印字されたラミネート加工したネームプレートをつけて設置します。入り口に一人立ち入ってきた車を南の方へ誘導し、運転手は係の指示に従って車を降りずにそのまま停車します。係の人が荷降しをし、分別をします。車は南に向けた状態なのでそのまま発進して出口から右折して帰っていただきます。



(2022 年度引継ぎの時の資料の一部)

前任者は 1 から資料作成、ネームプレートの作成等々、必要だと思われる物、必要な人数、人の配置すべて準備してくれていました。そしてついに 2 月、各務小学校初めての「ドライブスルー方式」の資源回収が実現しました。

今年度は、PTA 会員、地域住民の方々に定着するよう年 3 回実施する資源回収をすべて「ドライブスルー方式」で実施することに決め、5 月、

9 月と多くの資源回収物を持ち込んでいただきました。たまたま通りがかった年配の方が、「少しだけど、持ってきてもいいかな？」と声をかけてくださったり、ご家庭で集めていただいたベルマークを持って来て下さったり、とても嬉しかったです。

ステーション方式で各ご家庭を巡回する方が地域に貢献し、ご年配の方で、持ち込むのも車を運転するのも大変な方にとっては断然いいはずですが、回収物は少なくなったものの、企業ででた資源も回収させていただいたり、PTA 資源回収のために取っておいてくれたり、まだまだ地域とちゃんと繋がってる、そして今度は私たちが次に繋がるバトンを渡す番だと思っています。



(ドライブスルー資源回収の様子)

4.まとめ

新型コロナウイルスの影響から、多くの学校行事を縮小または、あきらめなければいけない事に悪戦苦闘をした P T A 活動でした。

しかし、この状況下の中でも何かできる事を考え、感染拡大を起こさないように考慮し、伝統行事を次年度に繋いでいくために、取り組みました。

また、資源回収活動においてはコロナ禍における新しい形を作り出したことは、今後必ず役に立つと信じています。

子どもたちが安全で楽しく過ごせる学校と地域の環境作りが今後も P T A 活動を通して続くことを願っています。

1. はじめに

稲羽中学校は自衛隊岐阜基地から少し南に行ったところにあります。各務原市ができる前からある歴史ある学校です。また、この辺りは三世代で暮らしている家



族も多く、親子で稲羽中学校に通っている生徒も多くいます。そして「同窓会」という組織も続いています。

(▼稲羽中校門から見る春の校舎)

学校教育目標を「志を立て 夢の実現めざして 粘り強く挑戦する生徒」と掲げ、学校・家庭・地域が一体となって日々の教育活動に取り組んでいます。

2. PTA スローガンと活動組織について

令和4年度の稲羽中学校の PTA スローガンを

子どもたちの心に寄り添う
～今の自分を大切に、
どんな時でも笑顔を忘れず、
お互いを知って認め合い、
ワンチームである生徒のために～

としました。私たちは、子どもたちに「今の自分を大切に」「どんな時でも笑顔を忘れず」「お互いを知って認め合いワンチームになってほしい」と願っています。そのためには、「子どもたちの心に寄り添う」ことが重要だと考え、このようなスローガンに決めました。また、子どもたちの心に寄り添える保護者であるためには、「大人がどんなときも笑顔で」「大人同士も支え合い」「思春期の子どもの気持ちを十分に理解し、大人が子どもにとって一番の応援団になる」ことが必要ですので、そのような視点からも活動を考え、取り組みました。

活動の組織は、会長と副会長5名が代表役員。代表役員6名と専門委員長4名、学年委員長3名が本部役員。それぞれの委員会に委員さんがいるという構成です。

3. 専門委員会が行った活動内容について

(1) 校外生活委員会

稲羽中学校では、学校行事や授業の一環として、全生徒と保護者、学校職員が協力し、各地区に分かれて資源回収を行っています。本年度は2回の実施を予定しており、5月と12月に行いました。本校の資源回収には6つの目的があります。

- ① 資源の再利用を進め、子どもたちが学習しているSDGsを地域で実践すること。
- ② 地域に貢献すること。
- ③ 地域の人々や生徒との交流を図ること。
- ④ 集荷時の対応でのあいさつ、礼儀、マナーを身につけること。
- ⑤ 働くことの意義や奉仕の心を高めること。(ボランティア活動は稲羽中校区学校運営協議会の重点活動になっています。)
- ⑥ 教育活動の資金を得て、環境整備や部活動支援などに活用すること。

です。ですから、資源回収を行うことが、PTA スローガン達成にもつながると思っています。

また、本校の資源回収は、中学生が地区生徒会の組織を活用して担当場所や役割を決めて活動し、保護者や職員はそれを支援します。しかし、中学生が数名しかない地区は地域の皆さんに集積場所への持ち寄りを協力していただいています。私たち校外委員は、コロナ対策の支援や交通安全指導、活動の見届けを行いました。コロナ禍でも従来の形に近いものを実施することができて、よかったです。

(2) 研修委員会

令和4年度は「高校見学バスツアー」を計画し、7月15日に実施しました。「保護者の方の高校を知る機会をつくりたい」「ミニ旅行で保護者同士のつながりをつくってほしい」という願いがあり、3年ぶりの高校見学バ



スツアーの開催となりました。

コロナ対策を講じ、近隣の3つの高校を見学しました。

(▼高校での学校説明会)

見学の際には、学校の設備や高校生の知識・技術等に圧倒させられ、それぞれの高校の特色を知ることができ、貴重な体験になりました。

帰路でのアンケートでは、「高校見学バスツアーに参加してよかった」「学年の違う保護者の方とも話ができた」という声を寄せていただきました。「事前に見学校の希望をとってほしい」という要望も聞くことができたので、来期に引き継ぎたいと思います。

また、「3年生の進路説明会」において、子育て広場委員会と合同で会の準備を手伝ったり、1・2年生の保護者の方にも参加していただけるよう呼びかけたりしました。

(3) 子育て広場委員会

「子どもの心に寄り添う」ことができる保護者であるために、2か月に1回を目標とし、P(保護者)側からとT(先生)側からが意味のある子育て広場を行おうと考え、次の活動を行いました。

① 「全校おにぎりの日」の実施

資源回収の日にお弁当が必要になるということで企画したものです。保護者全体に投げかけ、参加してもらいました。親子で話し合い、見届けてもらったおかげで、たわら型にしたり、塩結びをたくさん持ってきたり、『おにぎらず』に挑戦したり、様々なアイデアが飛び出しました。



(▼生徒の『おにぎらず』)

アンケート結果は、文書での配布だけではなく、ホームページにも掲載もしました。

② 「子育て広場サロン～コロナ禍でも楽しい時間を～」をテーマにして、子育て広場を開催

あえて、講師を招かず、保護者の方同士が気軽に話ができるような雰囲気をつくり、お茶やお菓子も準備しました。子どもたちが取り組んでいる脳トレのプリントをやったり、予約して来てもらっていた「移動図書館」も利用していただいたりしました。移動図書館の本を借りたり、その場で読んだりして、自分の時間の確保とともにリラックスしていただくことができました。

③ T(先生)主催の「井戸端会議(子育てサロン型)」の開催

「サザエさんの家庭の良いところはどこか」「ドラえもんに出てくるしずかちゃんのように自分も相手も大切に話す話し方はどんなものか」などをテーマに参加者で話し合いました。井戸端会議の後には学校見学があり、それも楽しみにして参加される方もいました。夏休みには校区合同子育て広場「ほめる達人になりましょう」を開催する予定でしたが、コロナのため延期になっています。また日程を調整したいと思います。

(4) 広報委員会

コロナ禍ではありますが、通常年2回の発行だった広報誌を、5月・10月・3月の計3回の発行にしました。先生方が撮った写真をうまく活用し、委員の負担が増えないよう工夫しました。

広報誌を通して、学校での生活や行事を、ご家族や地域の方たちに届けることができるよう、今年度は1枚でも多く発行し、一人でも多くの子どもたちのがんばっている姿を見せられるように写真をたくさん載せることを意識して作っています。

広報誌づくりは、学校や印刷業者との打ち合わせ、編集など やらなくてはいけないことが多いですが、保護者目線で作ることができ、そして、カラーの写真で子どもたちのさまざまな表情を伝えることができる唯一無二のお便りです。今後も、できるだけ多くの子どもの姿を掲載できるよう工夫して、作り続けたいと思います。

4. まとめ



(▼稲中祭の『お助け綱引き』)

そして、今後もウイズコロナという状況での活動が続いていきます。様々な制約のある中での活動となりますが、それぞれの委員会が1つのスローガンにもとづき、「ワンチーム」となって、「子どもたちの心に寄り添う」活動を続けることで、子どもたちの一番の応援団になっていけるようにしたいと思っています。

今年度は、それぞれの専門委員会がコロナ対策を講じながらの活動となりました。

令和4年度 各務原市PTA連合会 研究大会 記念対談

テーマ「ゲーム＝悪なのか ～岐阜県eスポーツ部から学ぶ～」

「子どもが勉強せずゲームばかりしている」

「オンラインで知らない人とつながってゲームをしている」

「みんなが持っているがゲーム機はいつから与えればよいのか」

PTA連合会に寄せられるゲームに関する悩みや相談は多岐に渡ります。

オンラインゲームやインターネットといった我々保護者世代では考えられない環境で育つ子どもたちに、保護者としてどんな関わりをもって、どんな指導をするべきなのでしょうか？一緒に考えてみましょう。

対談出演者

県立岐阜商業高等学校 e スポーツ部顧問 下平 昌子 氏

県立岐阜商業高等学校 e スポーツ部初代部長 守屋 巧海 氏

各務原市PTA連合会会長 阿部 雄介

動画内には、その他、部活動の様子や指導者の話、岐阜県eスポーツ協会の方の話などが収録されています。



令和5年1月30日（月）午後より動画配信